

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成27年11月5日(2015.11.5)

【公開番号】特開2014-69643(P2014-69643A)

【公開日】平成26年4月21日(2014.4.21)

【年通号数】公開・登録公報2014-020

【出願番号】特願2012-215871(P2012-215871)

【国際特許分類】

B 6 2 K 11/04 (2006.01)

【F I】

B 6 2 K 11/04 C

【手続補正書】

【提出日】平成27年9月9日(2015.9.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

サブフレーム4は、メインフレーム1の前部から下方に延出した第1サブフレーム片15と、第1サブフレーム片15に前端部が連結されてエンジンEの側方においてエンジンEの前方から後方まで延びてメインフレーム1の後部に連結された第2サブフレーム片17とを有しており、メインフレーム1を補強する。第2サブフレーム片17の前後方向の中間部は、前記第1エンジン取付部M1が設けられている。第1エンジン取付部M1には、エンジンEのシリンドラブロック26の後部が取り付けられる。第2エンジン取付部M2は、スイングアームブラケット16の上端部に設けられ、エンジンEの後端上部が取り付けられる。第3エンジン取付部M3は、スイングアームブラケット16の下端部に設けられ、エンジンEの後端下部が取り付けられる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

メインフレーム1の前端部1aと第1サブフレーム片15の上端部15aの連結は、第1サブフレーム片15に設けたボルト挿通孔(図示せず)に、先端部に雄ねじが形成されたボルト60を挿入し、メインフレーム1に設けたねじ孔(図示せず)に締め付けることでなされる。第1サブフレーム片15の下端部15bと第2サブフレーム片17の前端部17aとの連結は、第2サブフレーム片17に設けた第1ボルト挿通孔68(図3)に、ボルト62を挿入し、第1サブフレーム片15に設けたねじ孔(図示せず)に締め付けることでなされる。メインフレーム1の後端部1bと第2サブフレーム片17の後端部17bとの連結は、第2サブフレーム片17に設けた第2ボルト挿通孔70(図3)に、ボルト64を挿入し、メインフレーム1に設けたねじ孔(図示せず)に締め付けることでなされる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

制振手段72は、制振手段取付部74のねじ孔74aに螺合されるボルト84、制振手段取付部74とボルト84との間に介在されるワッシャ86、およびワッシャ86の外周に装着されてボルト84の頭部84aを覆うゴム部材88を有している。ゴム部材88は、高い減衰性を有する弹性体からなる高減衰性ゴム（減衰部材）で、例えば、低弹性高減衰ゴム（High Damping Rubber）、ポリノルボルネン系の高減衰ゴム材料等からなる。ゴム部材88は、有底の筒状で、ワッシャ86に係止される基部90と、ボルト84の頭部84aを覆う頂部92とを有している。基部90には、ワッシャ86が係止される環状の溝90aが形成されている。ボルト84の頭部84aとゴム部材88の頂部92との間に隙間Gが存在している。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図2】

